

10-3 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう③ — 自然やまちのことを地図に書き込みましょう

身近にある河川や道路など、自然やまちのことをグループで話し合いながら、地図に書き込みます。



自分が住む地域の地形やまちのことを理解します。



時間軸

実施内容

以下の説明文【例】を参考にお話ししてください。

1 「自然やまちのつくりを知る」の資料説明 (5分) →資料10-2

説明文【例】

(資料 10-2 を配付してください。)

それでは、実際に地図に書き込みをしていきます。まちのなかにある、河川や道路などについて、これから説明する要領で書き込みを行ってください。なお、油性ペンで塗る色については、資料 10-2 を参考にしてください。

<「油性ペンで塗る」凡例>

大きな川▶

大きな川を青色の油性ペンでなぞってください。このとき川の水が流れる方向も矢印で記入してください。

小さな河川・用水路など▶

次に「小さな河川や用水路」を紫色の油性ペンでなぞってください。このとき覆いのない水路だけでなく、川の上に覆いがあるトンネル状の水路も地図上で確認し、その出入口の場所がどこか確認してください。小さな河川や用水路についても、川の水が流れる方向を矢印で記入してください。

海岸線▶

海岸線を青色の油性ペンでなぞってください。海岸線をなぞったあとで、海の部分に斜線を引いてください。

大きな道路▶

次に「大きな道路」ですが、国道や県道など比較的広い幅の道路から順番に、茶色の油性ペンでなぞってください。これにより、まちのまとまりや地域のさかい目が目立つようになります。また、道路の勾配（上り坂、下り坂）があるところは、勾配（上り坂、下り坂）の方向を矢印で記入してください。

せまい道路▶

次に道路がせまくて消防車が入れないような「せまい道路」をピンク色の油性ペンでなぞってください。

※せまい道路の考え方：乗用車は通れても、バスは通れないような道路とお考えください。

鉄道▶

次に「鉄道」ですが、黒色の油性ペンでなぞってください。線路の高さが周りの土地の高さとどのような位置関係になっているかを考えながらなぞってください。

田畑▶

次に、「田畑」を緑色の油性ペンでなぞってください。田畑の面積が広い場合には、塗りつぶさずに中に斜線を書きます。田畑は、大雨が降った時に、雨水を一時的にためておくことができます。ここでは、どこにどのくらいの広さの田畑があるかを把握することが重要です。



透明シートの上から油性ペンで塗っていく

実施内容

時間軸

広場・公園▶

次に、「広場・公園」の敷地のまわりを黄色の油性ペンでなぞってください。敷地の面積が広い場合には、塗りつぶさずに中に斜線を書きます。ここでも、どこにどのくらいの広さの場所があるかを把握することが重要です。

2 地図への書き込み (15分)

説明文【例】

それでは、今説明した資料 10-2 を参考に、グループごとに地図に書き込みを行ってください。



グループで話し合いながら作業

指導ポイント

各グループをまわりながら、話し合いが進んでいないグループや地図への書き込みが滞っているグループがあった場合には、1つ2つ例示をして誘導してあげると議論が活発になります。人員に余裕がある場合には、議論を誘導していく役割の方を1グループに1名付けると効果的です。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、指導者の手伝いをお願いすることが考えられます。

準備するもの (目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「自然やまちのことを知る」	グループに1つ	資料10-2 (配付用)

ひと工夫

風水害を想定した場合には、まちのつくりを理解するとともに、地域の高低差や川がどこにどの方向で流れているかなど、自然の条件を把握することがとても大切です。道路の勾配を記入する際に、勾配の程度（なだらか～急）についても考えながら記入することにより、地域の高さがよくわかります。

資料 10-2 に記載している項目以外に、どうしても地図に書き込みたいものがあるかもしれません。そのような質問があったら、自由に書き込んでよいと伝えてください。

教材で示しているペンやシールの色は、ひとつの目安です。自由に色を決めてもかまいません。

注意事項

油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。

ベンジンはティッシュペーパーに浸して使用してください。また使用の際は、こぼさないように気を付けてください。換気は十分行ってください。